

# 日本珠算

2011年  
1月  
622号

年頭所感 理事長 森田悦男

## 特別企画

『武士の家計簿』監督インタビュー

尼崎市における「計算科」導入の効果

そろばんで凄い人 ⑫

そろばんのおかげ  
田村玲子

ひとりごと

そろばんトライアスロン  
珠算振興部会部長／大貝敏次

見学研修会報告

そろばん発祥の地・大津を巡る



# そろばんで磨く人⑫



## そろばんのおかげ

株式会社ワールドピープルUSA  
代表取締役 田村玲子

亡き父がそろばん人生の人だったので、幼少の頃からそろばんを習い始めました。

最初は嫌々やっていたそろばんも、いつしか大好きに変わっていきました。

「好きこそ物の上手なれ」で、そろばんは自分には合っていたようです。

毎日の練習は勿論のこと、学校の休み中には8時間、9時間の練習は当たり前でした。

ただそんな中でも「良く学び、良く遊べ」の精神で、限られた時間の中で「学校、そろばん、遊び」にと、全てに一生懸命だったのも覚えています。

私は大学卒業間近に、教授とのひよんな会話から渡米することが決まり、アメリカで大学院に通いながら、そろばんのボランティア活動をしてはどうかと薦められました。「これだ！」と決めたのは良いですが、特に英語が出来たわけでもありません。渡米を決めてからの勉強でしたので、ある意味無謀でした。でももう後戻りは出来なかつたので、英語の習得にもそろばんを活用しました。

単語を覚える時は目で見て、手（指）で書き、口で発音し、アルファベットをそろばんの玉に置き換えて覚え、会話、聞き取り、発音は読上算で鍛錬された耳をフル活用して、聞いた音をそのまま出せるように努力しました。英語の勉強、一日9~10時間は、そろばんの練習で慣れていたのでそれほど苦にはなりませんでした。これもそろばんのお蔭です。

アメリカに渡ってからも何度もそろばんに助けられました。渡米直後のたどたどしい英語でも、学校やTVでそろばんの模範演技をすることによって、実力社会であるアメリカにすんなりと受け入れて貰うことができ、友達もたくさんできました。人に見せられる物、社会に貢献できる物があることを重んじるアメリカで、特技を持っていることは何物にも代え難いものでした。特に「そろばん」は、ともすれば「神業」にも見えたようです。

競技会での勝ち負けも、自分の生き方に大きく

影響しています。勝負の世界では必ず「勝った人と負けた人」がいます。これは仕方のないこと。試合で勝った日には、その日一日の疲れなど、どこへやらで、嬉しくてしょうがありません。ただ負けた日には、その日の疲れと、それ以上に悔しさと切なさで、子供であっても「勝負の厳しさ」を思い知ります。

勝った時よりも、負けた時にいかに振る舞うかも問われ、人として成長するのです。まさに「芸の道、人の道」だと言えるでしょう。ただその経験を通して私がもう一つ学んだのは、「人生」は人との勝負でなくてもいいはず、という事。私は毎日、「今日の自分が昨日の自分に負けないように」を心掛けています。

アメリカにて教育学部博士号、またアリゾナ州サンダーバード大学院にて経営博士号（MBA）を取得後、5年間日系企業アメリカ支社勤務を経て、今現在はアメリカで事業を立ち上げる方や海外進出される企業をサポートする「国際ビジネスコンサルティング会社」を経営しています。右も左も分からなかった自分が、アメリカでの起業に至り、他の方のお手伝いをさせていただける立場になりました。

ふと振り返り、何が自分をここまで支えてくれたのかを想う時、そろばんで培った技能、忍耐力や持続力、「自分にはできる」と言う自信、これらを無くしてはあり得なかったことでしょう。また、いつもそっと応援してくれている人達がいたこと。これも無くては成らないものでした。

私のモノの見方、考え方は「そろばん人生」無くしては得られなかつたもの。これからも、どこで、何をしていても、私はそろばんと共に生きていく。これは一生変わらないようです。

最後に遠い異国の地より、今までお世話になつた先生方、選手の皆さん、優しい家族に「感謝の心」を送ります。ありがとうございました。